

令和6年度「地域と共にある学校づくり」リーダー研修会 実施報告

《日 時》 令和7年2月3日（月）

《会 場》 奈良県産業会館 大ホール

《参加者》 ○県内の公立の幼稚園、認定こども園、小学校、中学校、義務教育学校、県立学校の教職員
○学校運営協議会委員、地域学校協働活動推進員等（地域コーディネーター含む）
○社会教育関係者、市町村教育委員会事務局員職員

計140名

《内 容》

◆第1部 表彰式

「魅力かがやく学校・地域づくり」奈良県教育委員会教育長賞 表彰状授与
三郷町小中一貫コミュニティ・スクール及び三郷町学校支援地域本部における取組



◆第2部 研修会

○ 取組報告

ひまわり畑プロジェクト～ともにそだつSDGs～
三郷町教育委員会事務局 教育総務課
指導主事 木村 維久子



表彰状授与式



取組報告

○ 講評及び講演

「コミュニティ・スクールで地域の次代の担い手を育てる」
～地域と学校が協働で子どもたちに身に付けたい力とは～
滋賀県立湖南農業高等学校学校運営協議会 会長 高木 和久

- 「ローカルコミュニティ」と「テーマコミュニティ」を上手く協働させ、地域という考え方の枠組みを広げる必要がある。
- 学校運営協議会は、どのような子どもの力育てるのか等、「目の前の子どものこと」を考え、具体的行動目標を共有することが大切である。
- 子どもに関わる大人は、自ら地域・学校・家庭にある「当たり前」「常識」を熟識し、アンコンシャス・バイアス（自分自身の無意識の思い込み・決めつけ・偏見）がないか、自己認識を深め社会の価値観の変化に気づき子どもの意識に沿った変革をすることが大切である。



《参加者の感想（一部）》

（三郷町における取組について）

- ・学校と地域の連携において、地域の方々とのしっかりとした信頼感が見えた。地域の方々が、日頃から高い意識をもって幼・小・中の学校活動をよく見ていると感じた。
- ・小中一貫のコミュニティ・スクールにとても興味をもった。幼・小・中で共通して何を目指していくのか。また、中学校での不登校支援、居場所カフェの内容にも興味をもった。

（講評及び講演について）

- ・学校運営協議会のあり方を考え直す機会になる話であった。子どもがこれからの社会で生きる力を伸ばすことができるコミュニティ・スクールを作り上げれば良いと感じた。そういう提案をしていきたいと思った。
- ・「相手の立場に立ったおせっかい・お裾分け」ということを常に意識されているということがわかった。コミュニティ・スクールを進めていく上で、自分の立場や役割を自覚し当事者として取組を進めるのはもちろんだが、様々な相手の立場を考え、行動できるようになりたいと思った。

